

平成19年6月30日発行

発行：学校法人皇學館  
編集：法人本部総務課

TEL0596・22・6308

E-mail : soumu@kogakkan-u.ac.jp

# 皇學館学園報

第12号

## ■伊勢学舎

[法人本部・大学院・専攻科・文学部]  
〒518-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地  
TEL0596・22・0201(代) FAX0596・27・1704

## ■名張学舎

[大学院・社会福祉学部]  
〒518-0498 三重県名張市春日丘7番町1番地  
TEL0595・61・3351(代) FAX0595・61・3350

●インターネットホームページ

http://www.kogakkan-u.ac.jp

### 皇學館高等学校創立50周年記念事業・皇學館中学校創立35周年記念事業

# 武道場・特別教室棟が竣功



弓道場(武道場)



剣道場(武道場)



柔道場(武道場)



**文武両道を磨く教場がまた一つ**

皇學館高等学校創立五十周年記念事業、皇學館中学校創立三十五周年記念事業の一環としてそれぞれ建設中であった高校武道場・中学校特別教室棟がこのほど無事完工し、竣功祭が四月二十一日に執り行われた。高校の剣道部・柔道部・弓道部はいずれも県内上位の成績をおさめており、また、中学校においてもゆとりある学習環境の整備を求める声は高まっていた。今回、期待の教場が出来たことで「文武両道」の精神に一層磨きがかかるという。

**機能性・安全性に優れた武道場**

新たに竣功した武道場——三平方形で、鉄筋コンクリート三階建て（一部鉄骨造陸屋根）。一階には武道系部室及び野球部監督室を配置。二階は公式試合面積を確保した柔道場・剣道場、三階は安全面に配慮した広い射場的場を備えた弓道場となっている。

充実ぶりが一際光るのが三階の弓道場だ。たとえば「矢取り道」。これまでの場に矢を取りに行く者は、射場的場までの矢が通る空間「矢道」の脇に設けられた矢取り道を利用していった。しかし、端とはいえず矢道を通るとは決して安全性が高いとはいえない。そこで、今回は矢道と矢取り道の間には鉄板の壁を設け完全に分断。鉄板は風除け、矢取り道は弓道の基本射

上/新しい教育拠点として完工した中学校特別教室棟。最新設備のマルチメディア教室や音楽室を兼ねたセミナーホールなどを備える。  
左/西側面から望んだ武道場。建物とグラウンドの間にはボールが飛んできて大丈夫なように固定式の防球ネットが張り巡らしてあり、安全性に万全を期している。



**最先端の設備をそなえた教育拠点**

特別教室棟はマルチメディア教室やセミナーホールなど最新設備がそろい、重要な教育拠点としての役割が望まれている。総面積は二七三六・二七平方メートル。地下一階付きの三階建てで、サンラウンジを配置したり、リアフリーにも考慮するなど誰もが安心して過ごせる空間に仕上がった。

また、竣功祭に先立ち、四月五日にセミナーホールにて清祓式を行い、同月七日にはお披露目を兼ね入学式が開催された。参加した保護者は一様に充実した設備に感嘆した。よって、今後の学校生活や地域交流に期待感をふくらませていた。

法である八節の練習場を兼ねるなど、非常に機能的な設計になっている。また、二階に設けられた柔道場と剣道場は、優れた採光性と通風性に優れた構造となった。大きく設けられた窓からは燦々と光が差し込み、冷暖房など空調設備も整っている。柔道部顧問の平賀秀忠教諭は「公式試合対応の広さを備えた道場は二十数年の念願だった。立派な道場に負けなように、成績の方も頑張りたい」と今後の抱負を語った。

**七十二名が参列するなか、厳かに竣功祭を斎行**

新しい武道場・特別教室棟の竣功祭は四月二十一日午前十一時から武道場二階の剣道場を祭場として執り行われた。当日は完工を祝うかのように爽やかな風の吹く陽気。祭典には、高校中学の保護者会・後援会・同窓会の役員をはじめ、工事関係者、学校関係者など七十二名が列席した。齋主は皇學館高校の小林裕八教諭が務め、無事に完成したことを「神前に奉告、清祓や玉串拝礼などすべての行事次第が滞りなく進行し、午後十二時に終了した。

特別教室棟に移動して直会が開催され、参列の方に引き続き出席いただいた。上杉千郷理事長が「わが皇學館は実に文武教育のバランスがとれた学校といえる。新校舎の竣功によりさらなる校風が進展することを期待したい」と挨拶の中で述べ、関係者の方々の理解と尽力に感謝の意を表し、その後宴に入り、盛会の内に終了した。



厳肅な雰囲気には含まれた祭壇場

**夢広がる 学び舎に！**

皇學館高等学校 中学校 校長 中村正昭

豊かな緑に恵まれた倉田山にまた一つ、際立つ校舎と武道場が完成いたしました。

中・高一貫六年制教育と高等学校教育のさらなる充実・発展を目指し、生徒の学校生活が伸び伸びとした活気に満ちあふれるものにするためにも、ゆとりある学習環境の整備はかねてからの夢の夢でありました。

この夢・希望に対して、保護会・後援会員の皆様の教育に対する深い理解と学校愛によって、絶大な協力・支援をいただくことになり、驚くべきはやさで夢が現実のものになりました。改めて、保護会・後援会員の皆様をはじめ、関係者の方々に深く感謝とお礼を申し上げます。

中学校教育におきましては、学力として最も必要な基礎学力の定着に重点を置く教育方針のもとに、少人数教育及び習熟度別授業を実施することになり、教室の確保に苦慮していたところでしたが、新しく普通教室四室の完成により、この問題が百%解消いたしました。

また、最新鋭の設備を誇るセミナーホール兼音楽室、マルチメディア教室、中学校専用美術室も完成いたしました。これらの施設を中学校が優先使用いたしますので、今まで高等学校と兼用であった特別教室の課題も解消されました。中学校のすべての学校行事、保護者会・後援会の行事や講演会・音楽会等の開催も可能になり、生徒が伸び伸び活動できる文化活動の拠点としても大いに期待できます。

一方、武道場は学び舎全体の整備構想を踏まえ、新たな場所所に新築いたしました。本校の伝統である武道のさらなる充実・発展を目指し、県下随一とも言える柔道場、剣道場、弓道場が完成しました。素晴らしい環境で、生徒たちの活動がどんな成果を出してくれるか大変楽しみです。

最初に申し上げましたように、真に夢の実現が叶いました。私たち教職員一同この上ない喜びであり、必ず教育上の飛躍的效果を確信しております。建学の精神に基づく教育の更なる向上充実に向け、この素晴らしい教育環境を最大限に生かし、期待に応えられるよう邁進する所存であります。

今後とも、本校教育へのご理解とご協力並びに、ご指導とご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。感謝とお礼の言葉といたします。

# 若さはじける「エンヤ」響く

## 第六十二回 神宮式年遷宮・第二次お木曳行事

### 千百名が一日神領民として奉仕

平成二十五年に執り行われる第六十二回神宮式年遷宮に向け、御用材を内宮と外宮に曳き入れる「お木曳行事」が始まった。昨年に続き第二次となる今回のお木曳行事のうち、五月十三日に行われた外宮領の陸奥に本学から学生やその家族、教職員など約千百名が奉仕。揃いの白装束に身を包み、「一日神領民」として二十年に一度の貴重な体験を満喫した。

#### 前日は浜参宮で身を清め

お木曳の前に心身を祓い清める「浜参宮」が五月十二日午後一時半から二見町江の二見興玉神社で行われ、学生や教職員

などおよそ九百三十名が臨んだ。

好天に恵まれたこの日、参列者を乗せたバス二十台が次々と二見興玉神社に到着。学生たちは潮の香りが吹き寄せる参道を「皇學館大学」の幟を掲げた先導者に導かれるように神殿へと向かった。文学部教育学科一年生の土田靖子さんは「すごい行事に参加させていただいているんだ、と実感しました」と溢れんばかりの活気に驚きながら、自身も奉仕者の一人になれる喜びを語った。



「エンヤ、エンヤ」の掛け声とともに、綱を曳く学生たち。



「浜参宮之証」と刻まれたお守りを手に喜びを語る東條貴史さん。

#### 町中に「エンヤ」の掛け声響く

五月十三日のお木曳には千百三十名が「一日神領民」として奉仕した。起点は伊勢市宮町の今社。はじまりの挨拶に立った伴五十岡郎学長は、千三百年の伝統の重みを真摯に受け止め、思いを込めて奉曳にあたるよう心構えを説いた。



の威勢のいい掛け声が町中に響き、沿道の人たち

ら、自身も奉仕者の一人になれる喜びを語った。その後、神前にて「無垢塩草」の幣でお祓いを受けた学生たち。心身を清めたことで、改めて「ご奉仕」の意義を感じたようだ。神道学科三年生の東條貴史さんは「将来、神職をめざしているの、いい経験になります」と話し、稀有な機会に巡り合わせたことに感慨深い様子だった。



神前に参拝し、沖合いの海中に鎮まる「興玉神石」から採る「無垢塩草」の幣で祓いを受ける学生たち。



初めてのお木曳体験に、学生からは「感動した」「楽しかった」という声が聞かれた。

外宮へは十一時三十分

の注目を集めた。息子を「見に来た」というある保護者は、前日に同じ学部の友人を家に泊め送り出したことを明かし、「みんな元気がいっぱいになっていて、安心した」と笑顔で話してくれた。また、ま居合わせたという観光客は「若い力ってすごいですね」と感心しきり。熱気みなぎる様子をカメラに収めていた。

#### お木曳を経験して

社会福祉学科一年 横山 源人

そろいの法被を着て「エンヤ、エンヤ」という威勢のよい掛け声を響かせながら、素手で綱を曳きました。素手で綱を握ると、今からお木曳をするのだという実感が湧いてきました。参加している方々はみなさん笑顔で、大きな声を出して心をひとつにできたことが印象的でした。皇學館大生として二十年に一度のお木曳に参加でき、自らの手で伝統的な綱を曳けて、大学生活でこのような経験ができたことを光栄に思いました。今回参加してみても、年配の方が多かったのだから

は私たちがのような若い世代の人がもっと伊勢神宮に関心を持ち、積極的に行事に参加することが大切だと思います。お木曳を通して地元の方々の伊勢神宮に対する意識の強さを改めて実感することができました。千三百年余りの歴史を重ね、日本人の信仰と文化を現代に受け継いできた式年遷宮の大きさを感心しました。またこの体験で、皇學館大学の精神を学ぶことができたと思います。そして、大学四年間でさらに様々なことを学んでいきたいと思えます。



1本1本、想いを込めて苗を植える学生たち。 伝統文化の担い手として 学生有志による皇學館奉曳会が発足

神道学科四年 山元 洋輔

私達皇學館奉曳会は、一、四回生の有志の学生からなる集まりで、クラブ活動とは別に、大学におけるお木曳行事の運営サポート、また、参加学生の中心的役割となるために結成されました。現在の会員は二十三名。これまでの活動は、大学が一日神領民として参加した五月十三日のお木曳とその前日の浜参宮、それに向けた説明会での運営サポート、また、十月初穂曳に向けての法被や木遣り唄の考案、さらにはその際に曳くお初穂となる稲のお田植え等にも参加させて

頂きました。 結成されてまだ間もなく、未熟な点は数多くありますが、私達の共通の想いは「神恩感謝」です。皇學館の学生は、皆何らかの縁があつてこの伊勢の地で学び舎を共にしている仲間です。そんな特別な縁を感じる仲間と出会えた事、そして日々平穩無事に学業をはじめとした学生生活を送る事が出来ていることへの感謝を、天照大御神様にお木曳を通して返し申し上げたいという想いがあります。また、四年間という短い学生生活の中で偶然にもめぐり会えた二十一年一度のお木曳行事に、他のどの大学でもなく伊勢の皇學館の学生がそのエネルギーをぶつけ、第六十二回の御遷宮に向けてもっと伊勢を盛り上げていきたいという想いもあります。 今後私達は、小川町の陸奥への参加、木遣り唄の練習等、初穂曳に向けて本格的に動き始めます。一同協力して、皇學館のお木曳行事をまだまだ盛り上げていきたいと思っております。

創立百三十周年・再興五十周年記念事業寄付者芳名

創立百三十周年・再興五十周年記念事業募金に... 声とともにその後も多くのご芳志をいただきました...

Table with 4 columns: 区分, 申込件数, 申込金額(円), 納入金額(円). Total: 2,803 applications, 991,920,000 yen received.

宗教界(神界)

- 茨城県: 茨城県護国神社様 (水戸市見川) 五十万円... 東京都: 明治神宮様 (渋谷区代々木神園町) 一千万円...

本人確認にご協力ください!

平成19年1月4日から、本人確認手続に関する法令の改正により、金融機関において10万円を超える現金をお振込みされる場合には、本人確認書類の提示が必要となります...

本人確認書類: 運転免許証、健康保険証、パスポート等公的証明書... 皇學館大学 問い合わせ先 記念事業推進室 ☎0596-22-6313

- 岐阜県: 岐山護国神社様 (岐阜市御手洗) 六十万円... 静岡県: 小國神社様 (周智郡森町) 百万円... 東京都: 賀茂御祖神社様 (左京区下鴨泉川町) 百万円...

- 学校法人皇學館教職員: 大串 兎紀夫様 五万円... 山田 茂様 五万円... 皇學館大学 問い合わせ先 記念事業推進室 ☎0596-22-6313

- 天満神社様 (広島市中区中島町) 三十万円... 石川 田中 正洋様 十万円... 愛知県: 野村 辰美様 五万円... 京都府: 賀茂御祖神社様 (左京区下鴨泉川町) 百万円...



真新しい中学校特別教室棟のセミナーホール。竣功祭に先立ち4月5日に清拭式を行い、平成19年度中学校入学式が挙行された。

平成二十五年、あたたかも第六十二回神宮式年遷宮を迎えるその年は、皇學館高等学校は創立五十周年、同中学校はその翌年に創立三十五周年を迎える節目の年にあたる...

周年事業への募金のお願い 皇學館高等学校創立五十周年 皇學館中学校創立三十五周年 記念事業

この周年事業については、昨年度末、皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年事業委員会が設立された...

今年三月末、総工費十億円をかけて竣工した高等学校武道館および中学校特別教室棟の誕生は、その成果である...

発展に寄与し、国際社会に貢献できる人材の育成... 皇國ノ道義ヲ講ジ 皇國ノ文学ヲ修メ...

募金要項 募金目標額 2千万円 募金期間 平成19年6月から平成25年3月までの6年間 寄付の種類 【法人】一口の金額は特に定めておりません... 【個人】一口 5千円... 学校法人 皇學館 記念事業推進室

このことを「建学の精神に則った教育の実践は時代の要請」と表現し、そうした人材育成に資する周年事業であらうとする目的意識で費がれている...

# 平成20年度、「教育学科」から「教育学部」へ

## 来春、3学部になり新たなステップ! 社会福祉学部も2専攻5コースに改組

教育や福祉の現場におけるさまざまなニーズに対応するため、本学では平成二十年四月に教育学部を開設、社会福祉学部を改組する。学部の新設は十年ぶり。教育学部の定員は百七十名を予定しており、同学部の設置によって〔文学部・社会福祉学部・教育学部〕の三学部体制に移行する。社会福祉学部は改組によって一学科四コースから一学科二専攻五コースとなる。これらの取り組みについて伴五十嗣郎学長にお話を伺った。

### 建学の精神を重んじながら、社会のニーズに対応

はじめに、教育学部を開設、社会福祉学部を改組するにいたった経緯を教えてください。

本学は昭和三十七年の再興後、神宮皇學館時代以来の精神を引き継ぎ、日本の歴史・伝統に基づく文化を究明するとともに、祖国を愛する心を育み、社会にとって有為な人材を輩出するべく教育・研究を進めてまいりました。結果として神界はもとより、教育界でも大きな足跡を残し、およそ四千名もの卒業生を教育界へ送り出してきた実績一つとりましても、本学の人材育成への取組みが高い評価を得ていること

を「理解いただけると思っています。」

しかしながら、現状に甘んじているわけにはまありません。昨今、教育・福祉の現場はさまざまな

### 三つのコースを採用し、実践力の高い教員養成を

「教育学部ではどのような人材養成をめざしていますか？」

「建学の精神に基づいた人材育成」という根幹の方針は変わりません。その上で、二つの大きな流れに着目しました。一つは教育学の進化です。学問の世界は今、専門性をより高めた「細分化」が進む一方、異なる領域



展望を語る伴学長。

### 教育学部教育学科 3コース

- 学校教育コース
- 幼児教育コース
- スポーツ健康科学コース

### 社会福祉学部社会福祉学科 新しい専攻・コース

- 社会福祉学専攻
- 福祉支援コース
- 保健福祉コース
- 社会情報コース
- 特別支援教育コース
- 介護福祉コース
- こども福祉学専攻

立した学問としてのベースが整ってまいりました。二つ目は教育現場における新しい動きです。初等・中等教育を一貫性のあるシステムで学ばせたい、子どもたちの体力低下をくい止めたいといった要望は多く、人材を育てる側としてはこうした動向やニーズに真摯に応えたいと考えました。教育学部では〔学校教育・幼児教育・スポーツ健康科学〕の三コース制を採用し、文学部教育学科で培った伝統と実績をもとに、一層充実した学習環境での教員養成をめざします。

「皇學館らしき」を守りつつ、伝統に新しい風を吹き込んでゆく。本学の今後の展開にご期待ください。

ご自宅にあった蔵書は、吉村昌之氏ら関西大学時代の教え子の方々が整理にあられた。膨大な数のため、目録作りも大仕事であったという。その目録とともに蔵書の大部分である五千数百冊が本学に届けられ、図書館において受入れが進められていたが、ようやくその作業が完了。公開に先立って博士のご遺族をお招きし、整理された書籍をご覧いただくことになった。

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

改組された社会福祉学部の特色は？

人と人との繋がりを大切にし、共生観の上に立つて福祉に取り組む本学学生は社会からの信頼厚く、毎年100%に近い就職率を誇ってまいりました。しかし、福祉を取り巻く環境も日々変化が激しく、学生一人ひとりの目標にきめ細かく応えるためにも、二専攻五コースに改組します。

取得できる資格を拡充

特筆すべきは取得できる資格の多さで、その数は十二種に及び、社会福祉士や特別支援学校教諭・幼稚園教諭・保育士・社会調査士など幅広い分野での活躍が可能です。

元学長大庭脩博士の蔵書を公開

ご遺族に感謝状贈呈

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

元学長大庭脩博士の蔵書を公開

ご遺族に感謝状贈呈

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

皇學館大学と名張市との連携に関する協定書締結

教育学部の設置につきまして、保護者、学生の皆様に対し紙面をお借りし、補足説明をさせていただきます。現在、文部科学省が進めている教育改革に象徴されるように、教育現場に対するニーズが多様化・複雑化している

教育学部開設後も、現在の教育学科の力キリが変更されることはありませんが、教育・研究のレベル向上にさらに努めて、新しい教員スタッフ

皇學館大学文学部教授 掛本 勲 夫

皇學館大学文学部教授 掛本 勲 夫

皇學館大学文学部教授 掛本 勲 夫



皇學館大学文学部教授 掛本 勲 夫